

第 2 回検討委員会【報告事項】に関する主な質問・意見等について

部活動のあり方について	
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今進めている部活動をめぐる議論は、教員の働き方改革、地域指導者の協力体制、部活動のために自由に学校を選択できる特認校制度、が全部ひとまとめになり、ごちゃごちゃの議論になってしまっている。</li> <li>・教員の部活動による負担軽減のための国の方針を見極めながら、地域事情や地域指導員の協力体制の確保をどう進めるかが議論すべき課題である。</li> <li>・従来、学校単位で行われている各種大会が、少子化により学校単位では難しい現実がある。中体連の方針変更を要望しながら複数学校による合同チームを可能とすることなどを模索すべき。</li> <li>・県内の殆どが目指している中学校の統合は 2～3 クラスを目指す方向である。そうすれば部活動のために学校を選択したり、保護者が送迎したり、特認校制度は不要となり、全ての学校に様々な部活動を存続する事が可能となる。</li> <li>・部活動のあり方が学校のあり方の議論の主役となっている感があるが、中学校の質の高い教育がまず議論されるべき。</li> </ul>

平・上平地域における将来の学校説明会について	
質問	<p>Q. 義務教育学校化について、今後どのような形で進めていくのか。</p> <p>A. 地域との合意は急がない。地域が前向きに検討をしたいということになれば、設置協議会を立ち上げるところから進めていきたい。</p> <p>Q. 義務教育学校になったら、教員は何人確保できるのか。</p> <p>A. 現在は、上平小学校に教諭 10 人、平中学校に教諭 8 人。2 キャンパスの場合は、上平キャンパスに教諭 8 人、平キャンパスに教諭 10 人となる。校長が 1 人となるため、どちらかに教諭が 1 人追加される。</p> <p>Q. 学校を改修するという予定だが、まだお金をかけるつもりなのか。</p> <p>A. 予定している工事は、現上平小学校の一部を保育園へ転用するための工事にかかるものであり、大規模な改修は予定していない。</p> <p>Q. 教員の働き方改革という観点から、学校間の移動が負担になるのでは。</p> <p>A. 学習カリキュラムを工夫することなどで解消できると考えている。</p> <p>Q. 他の地域でも、保育園及び小学校の連携構想があるのか</p> <p>A. 南砺市ではそれぞれの校区で幼保小中連携を考えているが、地域により形に違いはある。2 キャンパス制は、平・上平地域の特徴である。</p> <p>Q. 南砺つばき学舎の設立の際、学校の名称に「南砺」を入れたいと教育委員会</p>

	<p>から強く要請された。(仮称)南砺市立五箇山学舎もそうなるのか。</p> <p>A. 南砺市で初めて設置する義務教育学校であり、将来の特認校制度導入も見据えて校名を決定した。地域の人にも参画していただいた「井口地域義務教育学校設置協議会」の総意で決定した。今後設置する義務教育学校については、現時点では何も決まっていない。南砺つばき学舎の経緯も含め、今後検討していく。</p>
	<p>Q. 現在の上平保育園は、今後、どのような形になるのか。</p>
	<p>A. 公共施設再編のルールも含め、検討していく。</p>
	<p>Q. 検討委員でさえこの案がどこまで精査され、公表されているのか知らないにも関わらず、翌日の新聞に大きく取り上げてあった。新聞社に予め知らせてあったのか？新聞社を利用して既成事実を作ろうとしているという疑問が生じる。</p>
	<p>A. 第1回検討委員会でも資料提供をしており、新聞社より問い合わせがあったため、平・上平地域での説明会後に取材対応を行った。第2回検討委員会後に報道されることは聞いていたが、報道の仕方までは関知していない。</p>
	<p>Q. 保育園が上平キャンパスは3歳以上児、平みどり保育園は3歳未満児という構想になっているが、兄弟の場合別々の保育園に通園するという事になるのか？</p> <p>それぞれの保育園で一番遠い児で通園時間(距離)はどれぐらいになるか？</p>
	<p>A. 上平キャンパスは0～5歳児の保育、平キャンパスは3歳未満児のみの保育を行うので、上平キャンパスであれば兄弟と一緒に通園可能。平地域の方も家庭の都合に合わせて選択可能。</p> <p>一番遠い児の通園時間(距離) 平 : 15分(約9km) 上平 : 20分(約10km) ※R7以降</p>

## 第2回検討委員会グループワーク及びその後の意見等

## (1) 学校の適正規模について

## ①文部科学省が示す標準学級数を南砺市に当てはめることについて

- ・必ずしも標準化が適していないなら、当てはめなくてもよい。
- ・仕方がないと考える。(市単独で人件費を設ければ別だが・・・)
- ・教育に関する法律、施行規則、施行令の範囲内で市独自で決めればよい。大規模な市を真似る必要はない。
- ・学校の先生が実際、教育を行うにあたり、望ましい人数があるのではないか？そこから、理想となる学級数、学校規模が見えてくるのではないか？その後、市が教育にあてることができる予算、地域の実情などを反映させていくことが必要。
- ・無理やり当てはめる必要はないが、12学級あるということは学年2学級となり、クラス替えが可能となる。その方が望ましいと考えるので、12学級にできるようならすればよいし、物理的に難しいのであれば無理する必要はない。
- ・全校の児童・生徒数、各学年の児童・生徒数ともに、標準学級数程度の人数で関わら合うことが今の子どもたちにとって最適ではないか。ただ、1学級の人数は25～30人程度が良いのではないかと思う。
- ・中学校は2クラスから1クラスになったら専門性は確保できないのでは。
- ・城端は単級になったらなおいい。
- ・ある程度人がいると競い合う、多様性が磨かれる。
- ・学校規模と学級規模は別問題。

## ★教育委員会の見解

教育的観点から望ましいとされる学校規模を国は示しておらず、地域の実情に委ねています。現在の教育制度においては、児童生徒1人当たりの教員を最も手厚く配置できるのが単級の学校であり、統合するより現在の教育資産を生かすメリットのほうが大きいと考えています。デメリットに対する方策として実施しているのが、チーム担任制や特認校制度、義務教育学校化です。

## ②南砺市内小中学校が統合するとなった場合に問題となる点について

- ・「旧福光町だけ学校数が多い」という意見もあるが、それは合併前の旧町教育委員会が取り組んだ結果なので、旧福光町は「1小1中」にこだわらなくてもよいと考える。
- ・小学校統合のメリット、デメリットについて、大規模小学校の事例があるとありがたい（人間関係の固定化、半数がバス通学等、子供や住民の意見が中心となるが、教員の声もあるとよい）。
- ・統合されることにより、学校が無くなった地域に、地域自治の存続の不安が残ることが問題。
- ・学校を無くすと地域が衰退するというが、小学校を残せば。
- ・通学距離が長いと、子どもの成長段階で疲弊してしまうのでは。
- ・通学距離が長くなること。発達段階から考えて、小学生はバス通学でも20分以内が望ましい。（上平小学校には30分の子供もいる）
- ・通学距離が長くなる児童・生徒が増える。

### ★教育委員会の見解

福光地域においては、以前の提言書でも義務教育学校以外の方向性も選択肢として明示しています。今回は複式学級ができる前に、地域の考えをまとめていただくという提案をしています。

高校再編により高校が無くなったことで地域が衰退したという声は聴いています。保護者のみならず地域の声も聞きながら学校のあり方を考えていく必要があります。

成長段階において、長時間かけてスクールバスで学校へ通うことが統合によるメリットを上回ることなのかを考えていただきたい。

### ③前回の提言書で示された義務教育学校化について

- ・委員の中には「義務教育学校＝マイナス（存続のための手段）」というイメージがある。仕組みや内容に関して、メリット、デメリットを説明する必要があるので、共通理解の上で地域の実態に応じて進めて行くといい。
- ・全地域に無理やり義務学校化は必要ないのではないかと？各地域で今後の少子化、社会の変化を想像しながら、どのような地域教育があればよいかを話し合いながら、その中で義務教育学校化が適していれば、そのようにすればいいと思います。
- ・義務教育学校のイメージが出来ていないのではないかと？以前、義務教育学校の先進地、高知県土佐山学舎に視察に行かせていただいたが、いきいきと学校生活を行っている子供達を見て、南砺市教育委員会の目指している姿が分かりました。南砺市で先行させている南砺つばき学舎を見ていただくのもいいと思います。低学年の間でも英語が飛び交っている姿を見てびっくりしました。
- ・義務教育学校のメリットが見えない。山間部のへき地の学校は、学校を残す手段として有効かと考えるが、例えば、つばき学舎ではどのような成果が上がっているのか。子供へのアンケート、教師へのアンケート等で分かるものを出してほしい。
- ・すでに井口の小中学校は義務教育学校となり利賀もその方向で進んでいることから、特色ある学校として一部の学校が義務教育学校化することについては良いと思いますが、8中学校区全てを義務教育学校にする必要はない。
- ・義務教育学校を考えるのなら一斉にやるべき。全市的な問題として捉えるべき。
- ・義務教育学校が増えたら、複数の免許を持った先生を確保できるのか。
- ・小学校と中学校は分けて考える。
- ・利賀、平・上平の義務教育学校は仕方がない。
- ・福光の義務教育学校化は反対（中1校、小2校）。

#### ★教育委員会の見解

義務教育学校は、従来は別々であった小中学校の教員が一つの学校で学年を問わず柔軟に教え合うことが可能になることから、単級化に伴う専門教科の教員不足をカバーする手段としても有効となります。

義務教育学校化は方向性として示したもので、地域が統合を望めば拒むものではありません。ただし統合する場合も既存校舎を活用し、学校の新設は行わないことが前提となります。

## (2) 今後の地域別児童生徒数と学校設置について

### ①地域での検討時期について

- ・検討委員会で協議された案について、統合の5～6年位前から自治会、小中学校、幼稚園、保育所などで説明、意見の収集を行い、4年前頃から地域別に検討委員を立ち上げ、本格的に協議に入るとよい。
- ・早い方がいいと思う。南砺つばき学舎も再び、複式学級にならないよう、市、地域と協力して次の一手が必要なことが分かった。
- ・地域ごとに決めるのであれば、この検討委員会の役割がまた分からなくなってくる。地域ごとに決めたものを集約して提言とするならば、今一緒にそれぞれの地域でも協議してしまえばよいと思うし、複式学級が発生する時期、小中すべて単級となる時期の2～3年前に協議会(委員会)を開始し、地域で決めるということを提言とすればよい。
- ・検討委員会と各地域での検討を並行して行ったほうが良いと思う。地域づくり協議会やPTA連絡協議会の方に橋渡し役をしていただけたら良いのではないかな。
- ・時期が来たら一斉に議論すべき。

#### ★教育委員会の見解

教育委員会では、今回の南砺市立学校のあり方検討委員会に対して、学校が単級化(または複式学級化)する前に地域において検討委員会を設け、義務教育学校とするか統合するかの方向性を地域で決めるとする、より具体的な提案を行っています。これまでも地域の意見を最優先に進めてきたことから、それを今後も踏襲するということです。

検討委員会としての提言がどのような形となるかは分かりませんが、提言は市としての方向性であり、現段階で地域ごとの結論を提言とする予定はありません。

今後も検討委員会は、市としての方向性を議論する必要がある場合に設置されます。

②想定される今後の方向性について

- ・教育行政側では特色ある魅力の教育を進めていくとともに、市の他部局と連携し、人を呼び込み、定着する仕組み作りが必要だと思う。
- ・福光地域では、中学校の統合について意見が出ているということであれば、地域で協議すべきだと思う。
- ・複式学級や単級になる学校をいくつも残すことにメリットはないと思う。
- ・校区毎に考えるのは？

### (3) その他の意見

- ・例えば、平・上平地域の義務教育学校について、校舎分離型で打ち出されたが、義務教育学校になっても教諭が1名しか増えないこと、複式となって学級が減れば加配がなくなることを知らせ、教員をどのようにやりくりすれはうまくいくのか、学校の工夫という言葉で終わらせず、具体的な話をするべきだと考える。また、学校が考える不都合さに対しても丁寧に答えるとともに、検討委員会でも公表していただきたい。地域が自分たちで考えるとすれば、そのような情報は必要だと考える。
- ・教育長が前回の委員会で小規模校のほうが良いと言われていたことについて、子どもたちの未来像や具体的にどのような結果に結びつくのかといったことについてお聞きしたい。
- ・利賀、平・上平は別の意味で学校のあり方を議論する必要はあるかも知れない。しかし、井口を含む旧4町は全国的に見てへき地でも通学困難な距離でもない恵まれた環境下にあると思う。合併した意義や目的に照らして地域エゴで子育てを議論している暇も時間も無い。スクールバスをフル活用するなど教育に相応しい財攻支出を惜しんではいけない。教育や子育てが充実しない南砺市に未来は無いと考える。
- ・全学校のあり方だけに絞り込むのはいいが、地元に戻って振り返ったら、部活動はどうなったかと話題になる。
- ・話が複雑になっていることを認識すべき。
- ・部活を切り離して考えることはできない。
- ・拠点校の場合、部活動の交通手段を想像してほしい。
- ・特認校制度について説明がなかった。
- ・小学校と中学校で同じ議論をするのはムリではないか。話が分かりにくい。
- ・教員数が揃っていない（免許）。
- ・教員が複数いるとサポートしやすい。子どもたちの理解度に差が出る。
- ・5教科の学力、その他人間性を育てる。
- ・富山県の教員倍率は2倍、質の低下。
- ・子どものための魅力、希望が見える方向性がほしい。
- ・数値化できない内容が多い。
- ・観点と優先度の整理。



- ・井波地域で保小中、PTA、先生、同窓会が情報交換。
- ・ソフト面の魅力。
- ・本当に子どもが大切ならば市のお金を入れたらどうか？
- ・子供から不安の声があがっている。
- ・中学校のトイレはそのまま使えない。
- ・それなりの予算は必要である。
- ・R15以降のビジョンが見えてこない。
- ・学校行事はどのようになっていくか。
- ・施設が隣接していない中でどのようになっていくか。
- ・平高校との合併も検討の余地があるのではないか。
- ・誰がリーダーシップをとって実施するか。期間は目安。
- ・地域づくり協議会が主体となって行っていく。
- ・制服や校名の決め方（つばき学舎は全アンケート（保護者）を実施）。
- ・義務教育学校のメリット・デメリットの意見交換。
- ・設置までの進め方の意見交換。
- ・福野地域では考えるところではない。

## 南砺市立学校のあり方のこれまでと、これからの見通し（案）

### 〈これまでの動き〉

年次	H21	H26	H28	H30	R1	R3.1	R3.4	R4.3	R4.3
項目	① 平中学校開校	上平小学校開校	② 第2次公共施設再編計画	井口地域義務教育学校設置協議会設置 (R3開校)	④ 公共施設再編計画検討委員会	⑤ 南砺市立学校のあり方検討委員会	南砺つばき学舎開校	南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会	⑥ 第2次南砺市公共施設再編計画(改訂版)
内容					市内全公共施設の面積を1/2にするため、4小・2中の案	全ての地域に義務教育学校として残す方向(全ての学年が単級になった時点)。ただし、保護者の要望+地域の同意で統合も可 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">提言書</div>	市内初の義務教育学校が開校	①拠点校化 ②地域移行 ③特認校制度 ④国・県の動向の注視 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">提言書</div>	今後、学校のあり方検討委員会<II>で協議された結果が反映される(面積1/2に縛られない)
その他の動き	⑦ 【平・上平地域】【井口地域】(【利賀地域】)への対応から、学校を統合するか、義務教育学校化するかどうかは、その地域の意思が最優先される。2つ以上の地域にまたがる場合は対等に扱われる。				『南砺・令和の教育改革』・・・小規模校のよさを生かし、問題点を減らす改革 ・R2『チーム担任制』開始 ・R2 部活動改革に着手 ・R3『地域毎の学校評議員会』 ・R5 特認校制度開始				
	③ 小中連携、学校間連携の推進				地域を基盤とした小中一貫教育の開始				

### 〈これからの動き(案)〉

年次	R4~R5	〈設置年次は原則5年ごと、必要に応じて前後する〉						
あり方検討委員会	⑧ 南砺市立学校のあり方検討委員会<II>	R5~ コミュニティスクール化に向けて順次対応	南砺市立学校のあり方検討委員会<III>	南砺市立学校のあり方検討委員会<IV>	南砺市立学校のあり方検討委員会<V>			
地域の動き	年次	R4.9	R6.4	R6頃	R11	R12頃	R17	R42(2060)頃
	項目	利賀地域義務教育学校設置協議会設置	⑩ 利賀地域義務教育学校開校(予定)	福光地域将来の学校検討委員会設置(5校全体で検討)	⑫ 福光南部小に複式学級、福光東部小・吉江中が全学年単級化(R14)	井波地域将来の学校検討委員会設置	⑭ 井波小・井波中が全学級全学年単級化	人口減少が進み、義務教育学校の統合も視野に入る
	年次	R5以降	R7以降	R10頃	R15			
	項目	平・上平地域複式学級化(要望があれば)義務教育学校設置協議会設置	⑪ 平・上平地域義務教育学校開校(?)	城端地域将来の学校検討委員会設置	⑬ 城端小・城端中が全学級全学年単級化	※各地域においては、全学年が単級化するか、複式学級ができる5年前を目途に、地域毎に学校あり方を協議する検討委員会を設置する		校舎の老朽化が進み、全域的に見直される可能性

⑨ 南砺市の学校施設は全てが新しい ⇒ 新築は行わないことが前提(統合又は義務教育学校化は現在の学校施設を利用)

# 福光中学校区 学級数の見通し

(R3 県教委学級編成基準より)

※福光南部小ー福光中部小が統合しない場合

出生数（5才まで）と児童生徒数の現状から

学級	小学生は	35名定員
	中学生は	40名定員と仮定

令和4年4月1日現在（人）

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才
学年				年少	年中	年長
福光中部小	28	42	37	55	45	47
福光南部小	2	3	4	8	5	10
合計	30	45	41	63	50	57

6才	7才	8才	9才	10才	11才
小1	小2	小3	小4	小5	小6
51	36	54	49	52	46
15	15	14	8	4	7
66	51	68	57	56	53

12才	13才	14才
中1	中2	中3
49	55	65

- 11 -

	0才	1才	2才	3才	4才	5才
R4	30	45	41	63	50	57
R5		30	45	41	63	50
R6			30	45	41	63
R7				30	45	41
R8					30	45
R9						30
R10						
R11						
R12						
R13						
R14						
R15						

未 定

小1	小2	小3	小4	小5	小6
66	51	68	57	56	53
57	66	51	68	57	56
50	57	66	51	68	57
63	50	57	66	51	68
41	63	50	57	66	51
45	41	63	50	57	66
30	45	41	63	50	57
	30	45	41	63	50
		30	45	41	63
			30	45	41
				30	45
					30

(人)

中1	中2	中3
49	55	65
53	49	55
56	53	49
57	56	53
68	57	56
51	68	57
66	51	68
57	66	51
50	57	66
63	50	57
41	63	50
45	41	63

# 福光南部小学校 複式学級の見通し

出生数（5才まで）と児童生徒数の現状から

（R3県教委学級編成基準より）

複式学級	小1～小2	8人以下
	小2～小6	15人以下（富山県）
	※特支考えない（仮定）	

令和4年4月1日現在（人）

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才
学年				年少	年中	年長
福光南部小	6	5	11	9	13	14

6才	7才	8才	9才	10才	11才
小1	小2	小3	小4	小5	小6
21	20	19	12	10	12

	0才	1才	2才	3才	4才	5才
R4	6	5	11	9	13	14
R5		6	5	11	9	13
R6			6	5	11	9
R7				6	5	11
R8					6	5
R9						6
R10						
<b>R11</b>						
R12						
R13						
R14						
R15						

小1	小2	小3	小4	小5	小6
21	20	19	12	10	12
14	21	20	19	12	10
13	14	21	20	19	12
9	13	14	21	20	19
11	9	13	14	21	20
5	11	9	13	14	21
6	5	11	9	13	14
	6	5	11	9	13
		6	5	11	9
			6	5	11
				6	5
					6

複式学級数

複式学級

未定

# 吉江中学校区 学級数の見通し

(R3県教委学級編成基準より)

※福光南部小ー福光東部小が統合しない場合

出生数（5才まで）と児童生徒数の現状から

学級	小学生は	35名定員
	中学生は	40名定員と仮定

令和4年4月1日現在（人）

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才
学年				年少	年中	年長
福光東部小	22	31	23	28	29	40
福光南部小	4	2	7	1	8	4
合計	26	33	30	29	37	44

6才	7才	8才	9才	10才	11才
小1	小2	小3	小4	小5	小6
33	34	36	49	41	50
6	5	5	4	6	5
39	39	41	53	47	55

12才	13才	14才
中1	中2	中3
52	62	56

	0才	1才	2才	3才	4才	5才
R4	26	33	30	29	37	44
R5		26	33	30	29	37
R6			26	33	30	29
R7				26	33	30
R8					26	33
R9						26
R10						
R11						
R12						
R13						
R14						
R15						



小1	小2	小3	小4	小5	小6
39	39	41	53	47	55
44	39	39	41	53	47
37	44	39	39	41	53
29	37	44	39	39	41
30	29	37	44	39	39
33	30	29	37	44	39
26	33	30	29	37	44
	26	33	30	29	37
		26	33	30	29
			26	33	30
				26	33
					26

(人)

中1	中2	中3
52	62	56
55	52	62
47	55	52
53	47	55
41	53	47
39	41	53
39	39	41
44	39	39
37	44	39
29	37	44
30	29	37
33	30	29